

ISHIKAWA DESIGN AWARD

令和 2 年度 石川デザイン賞

2020

令和2年度

石川デザイン賞 表彰実施要領

■ 目 的

石川県内のデザイン振興に大きく貢献した個人、団体、企業を評価、表彰することにより、県民へデザインの重要性を広くアピールするとともに、企業、団体へのデザイン導入の促進を図ることを目的とする。

■ 表彰対象

これまで石川県のデザインの向上、普及に著しく貢献している個人及び企業、団体を対象とする。

■ 表彰対象者の選考

①デザイン関係団体等の代表で構成する「石川デザイン賞選考委員会」において選考し、決定する。

②選考にあたっては、

- ・デザイン界において顕著な活動を実践したもの
- ・社会、教育に対してデザインのより一層の振興を図ったもの
- ・デザインに対して深い理解を示し、商品開発や販売促進、さらには地域・社会・環境等の課題解決にデザインを効果的に活用したものなどの観点から審査する。

■ 表彰

石川デザイン賞 3件以内 ※賞状と副賞を授与する。

表彰は、石川県知事と公益財団法人石川県デザインセンター理事長の連名による。

■ 石川デザイン賞選考委員名簿

委 員 長	川本敦久	金沢卯辰山工芸工房館長
副委員長	村中 稔	金沢美術工芸大学教授
委 員	飴谷義博	(一社)石川県繊維協会専務理事
〃	井上 淳	金沢市経済局担当局長営業戦略部長
〃	亀田重太郎	石川県インテリアデザイン協会副会長
〃	木水 貢	石川県工業試験場繊維生活部長
〃	東田修一	石川県ビジュアルデザイン協会理事長
〃	長岡満寿夫	(一社)石川県建築士事務所協会理事
〃	西田哲次	金沢商工会議所常務理事
〃	松本いつみ	石川県クラフトデザイン協会理事長
〃	水上定洋	石川県商工労働部産業政策課長
〃	水野一郎	建築家、金沢工業大学教育支援機構顧問
〃	山本洋志	石川県プロダクトデザイン協会会長

公益財団法人 石川県デザインセンター

石川県金沢市鞍月2丁目20番地（〒920-8203）

石川県地場産業振興センター新館4階

TEL 076-267-0365 FAX 076-267-5242

ホームページ <http://www.design-ishikawa.jp>

デザインの力。
人を動かし、
時代を創る。

ISHIKAWA DESIGN AWARD

◎ 受賞者・企業の紹介



安江 雪菜

(株)計画情報研究所 代表取締役社長



ホクショー 株式会社

代表取締役社長 北村宜大



吉田司 株式会社

代表取締役社長 吉田武司

受賞理由

情報サイト「能登スタイル」や物販サイト「能登スタイルストア」を立ち上げ、実店舗もオープンするなど能登振興に貢献している。また、持続可能な社会づくりに向け、幅広い分野でユニバーサルデザインの啓発・普及活動にも取り組んでいる。

安江雪菜氏は大学を卒業後、横浜市のシステムベンダーを経て、建設コンサルタントである計画情報研究所にＵターンで入社しました。同社の業務は都市計画の立案のほか、地域づくりとしての建築、観光、ものづくり、福祉、文化活動にまで及んでいます。これらの活動に共通するのは、関係者とビジョンを共有しながら課題を明確にし、解決することであり、そのプロセスにデザインの思考を積極的に取り入れてきました。

2007 年の能登半島地震を契機に、能登地域を支援するため、能登の暮らしや文化を発信する「能登スタイル」と、能登の良い品々を 300 点以上取り扱う「能登スタイルストア」を WEB に開設し、さらには能登スタイルストアの実店舗も尾張町にオープンさせました。同ストアでは、従来まで廃棄していた能登産赤なまこ石けん」をプロデュース。その後、化粧水、ハンドクリーム、入浴剤などをシリーズ化した自社商品は 10 年間で 10 万個以上を販売しています。

2017 年には、年齢・性別・能力などを問わず多くの人にとって利用しやすいユニバーサルデザインの普及を図る目的で「一般社団法人ユニバーサルデザインいしかわ」を設立し、専務理事としてさまざまな活動の企画、運営に携わっています。一例に、視覚障害者と暗闇の中でのコミュニケーションや共同作業を体感する「ダイアログ・イン・ザ・ダーク ショーケース」を金沢 21 世紀美術館で開催したほか、障害のある人らとともに、茶わんづくりから誰もが参加できる「○△□茶会」を開催するなど、多様で豊かな共生社会に向けた学びと気づきの場も提供しています。



上：能登スタイルストアで販売する「能登の赤なまこコスメ」シリーズ

右：視覚のない世界を体感する「ダイアログ・イン・ザ・ダーク ショーケース」



DATA

1964年石川県金沢市生まれ、金沢大学工学部建設工学科卒業。1989年に計画情報研究所に入社し、2019年より代表取締役社長。一般社団法人ユニバーサルデザインいしかわ専務理事。

受賞理由

製造から小売までのサプライチェーンの自動化・効率化に貢献することを企業使命とし、搬送システムの開発・製造に特化して取り組んでいる。人手不足を補う自動ラック搬送車「HART500」など、技術開発とデザイン開発を両立させる取り組みは高く評価される。

少子高齢化が進む中、人手不足に悩む企業は少なくありません。一方で、従業員満足度と生産性向上を求める「働き方改革」も、企業経営のキーワードとなっています。

このような時代のニーズに応え、多彩な業種のサプライチェーンを支えているのが、物流システムメーカーのホクショーです。同社では、「最適なモノの流れを創造する」をコーポレートスローガンに、多階層に物を運ぶ垂直搬送システムや、ピース単位での出荷・返品仕分けに対応できる自動仕分けシステムなどを開発。これらのシステムでは国内トップシェアを誇り、自動化の促進を通して物流現場の省力化や効率化に貢献しています。

同社が人手不足解消への新たな一手として、2020 年から販売するのが「HART500」です。HART500 は保管用ラックやパレットの下に入り、リフトアップして移動させる無人搬送車（AGV）で、床に貼った 2 次元コードを読み取りながら目的の場所を行き来できます。

通常、物流倉庫や製造現場では人が歩き回って必要な製品や部品を集めますが、HART500 はラックそのものを作業者の手元まで運んできます。ピッキングの作業効率が担当者の熟練度に左右されずに済むことから、大幅な省力化の実現につながりました。

環境に配慮した製品開発も、大きな特色です。起動電力アシストシステム「^{ヴェアス}VEAS」は、垂直搬送時に発生する回生エネルギーを蓄電し、モーター起動時に電力を供給することで、消費電力を従来比で約 40%抑えることができ、2010 年に石川エコデザイン賞を受賞しました。同社では、長年にわたって培った技術開発力で、省力化や省エネなど、さまざまな角度から物流の未来をデザインしています。



上：人手不足を補うロボットとして注目度が高まる AGV「HART500」

右：垂直搬送システムの省エネを実現する「VEAS」。同社では、停電時には自立起動で出庫が可能な「E-VEAS」も開発している



DATA

■代表者 北村宜大
■所在地 金沢市示野町イ6
■設 立 1952年12月
■従業員 350名

■売上高 174億円
■主な業務 物流自動化機器の製造販売およびメンテナンス

◎ ご挨拶

デザインは、時代を切り開く新しい価値創造のプロセスとして、商品開発や広告はもとより、企業戦略や都市景観、イベント、地域活性化など多様な分野で、その力を発揮しています。

ますます創造性が必要とされる今日において、より一層社会に対して、デザインの浸透を図っていくことが重要であると考えます。

石川デザイン賞は、こうしたデザインの役割を広く県民各層にご理解いただくために、デザインの普及・発展やデザイン業界の活性化に著しく貢献した個人及び企業、団体を顕彰するものです。

選考に際しては、デザインに対する理解の深さ、リーダーシップ、社会への貢献度、商品開発や販売促進においてデザインを効果的に活用したもの、そしてデザイン業界において顕著な活動をしたものを対象にしています。

令和2年度は、次の3者が受賞しました。ご一読いただき、デザインの有効活用の一助になれば幸いです。

公益財団法人 石川県デザインセンター

理事長 **大場吉美**

受賞理由

スポーツ分野のサポーターで国内トップシェアを誇る。近年は、身体の負担を軽減するアシストスーツや、医療用弾性ストッキングを開発するなど、物流や医療・健康分野にも参入する。利用者目線からデザインを採り入れたものづくりは高く評価される。

吉田司は 1950 年代にサポーターの製造を開始した業界の草分け的存在で、競技者の安全なプレーを裏で支えてきました。64 年の東京五輪で金メダルに輝いた日本女子バレーボールチームや、ヤンキース時代にけがをした松井秀喜選手が愛用。パフォーマンスを上げる機能性に富んだサポーターは、選手やコーチから厚く信頼されています。

医療・健康や物流分野を対象とする商品開発は約 10 年前から。本格的な高齢社会を迎え、物流や製造業、農業などの現場で腰への負担を軽減する「アシストスーツ」を物流会社の OEM（相手先ブランドによる生産）で開発。アシストスーツは、一定の姿勢を保つことをサポートするために樹脂材を使用し、同社が長年培った縫製技術で樹脂と繊維をしっかりと縫合しています。デザインは黒を基調としたシンプルなフォルムにまとめました。2016 年の販売開始から改良を重ね、シリーズ合計で 1 万 5000 着が売れるヒット商品となっています。

治療効果が最優先される医療用サポーターでもデザインを採り入れた商品を開発しています。例えば、がん治療後に見られる慢性的な足のむくみを緩和する医療用弾性ストッキング「クールララ」で、既製品の多くは肌色でしたが、ショーツ部分とストッキング部分で色を変え、上下それぞれピンクと白、黒とライトグレーなど 4 種類を取りそろえました。金沢大学、金沢美術工芸大学などと連携し完成させたもので、おしゃれな色彩が治療を続ける患者の前向きな気持ちを後押しすると評判を呼び、2019 年グッドデザイン賞を受賞しました。

同社では今後、患部の保護やけがの予防に使われるサポーターがもっと日常に溶け込み、デザインの力で「楽しさ」や「幸せ」を感じてもらえるアイテムに進化させていきたいと考えています。



上：機能性とデザイン性を両立した「クールララ」。肌触りや締め付け具合も入念に検証した

右：従来はモーターでサポートしていたアシストスーツに、繊維と樹脂材で軽量化と低価格を実現した



DATA

■代表者 吉田武司
■所在地 かほく市内日角ハ72番地2
■設 立 1967年2月
■従業員 65人（パート・アルバイト含む）

■主な業務 サポーターの製造・販売